

地理情報システム(GIS)導入による 業務効率化に関する 苅田町の取組について

苅田町 施設建設課

農林土木担当係長 佐村有人

苅田町の紹介

苅田町は、北九州市と行橋市の上に位置する人口約3万7千人、面積48.98km²の町です。東は周防灘に面して、国際貿易港・苅田港と広大な臨海工業地帯が広がっています。また苅田港沖には北九州空港があり、苅田港、東九州自動車道苅田北九州空港インターチェンジと併せ、陸・海・空の交通結節拠点となっています。



【苅田町 航空写真】



【苅田山笠】



【等覚寺松会】

課題と期待される効果

◎水道事業が抱える課題

- 給水収益の減少
- 行政改革による正規職員の減
- 水道施設の老朽化
- 水道管の耐震化
- 水道料金の改定
- 窓口業務、浄水場の民間委託
- 技術の伝承

施設抽出
 →

- ### 長寿命化計画の策定
- ・既設管路の情報整理
 - ・既存施設の把握
 - ・施設改修コストの算出

↓ 現状(気づき)

- ・管路マップ紙媒体
- ・窓口対応の時間を要する

↓ 対策(構想)

- ・管路マップの電子化
- ・窓口に端末を設置

業務の見直し、効率化

✗

- ### 業務委託
- ・導入コスト4,000万円
 - ・保守、修正コスト発生

- ### 地理情報システム(GIS)を活用
- ・KRIPP※1 共同利用にてArcGIS導入
 - ・地域性、先人の経験を反映
 - ・職員にて入力(根気)

採用
 (決断)
 ←

※1:北九州地区電子自治体推進協議会の略称

KRIPPの紹介

-北九州地区電子自治体推進協議会-
(略称:KRIPP)では、北九州が導入したGISを
共同利用し自治体の垣根を越えた地理空間
情報の利用を行っている。

加盟自治体

【北九州市、苅田町、香春町、行橋市、直方市、鞍手町】
※共同GISについては、平成25年から利用を開始。



■ 目的・期待する効果

地理空間情報の高度利用を推進し、地域が抱える行政問題
の解決を目的としている。

また、調達コストや経費削減、業務の効率化が期待できる。

内 容

1. 水道のしくみ

- ・用語の説明(図面、写真)

2. 今までの管理

- ・図面の用途、紙媒体での管理

3. 活用事例

- ・マッピングデータの作成

//

- ・データの公開、情報の共有

//

- ・データ抽出機能

//

- ・検針エリアのマッピング化

//

- ・持ち出せるGIS(スマホアプリ)

4. 他部署での活用事例

- ・促進経緯、用途別のまとめ、活用事例

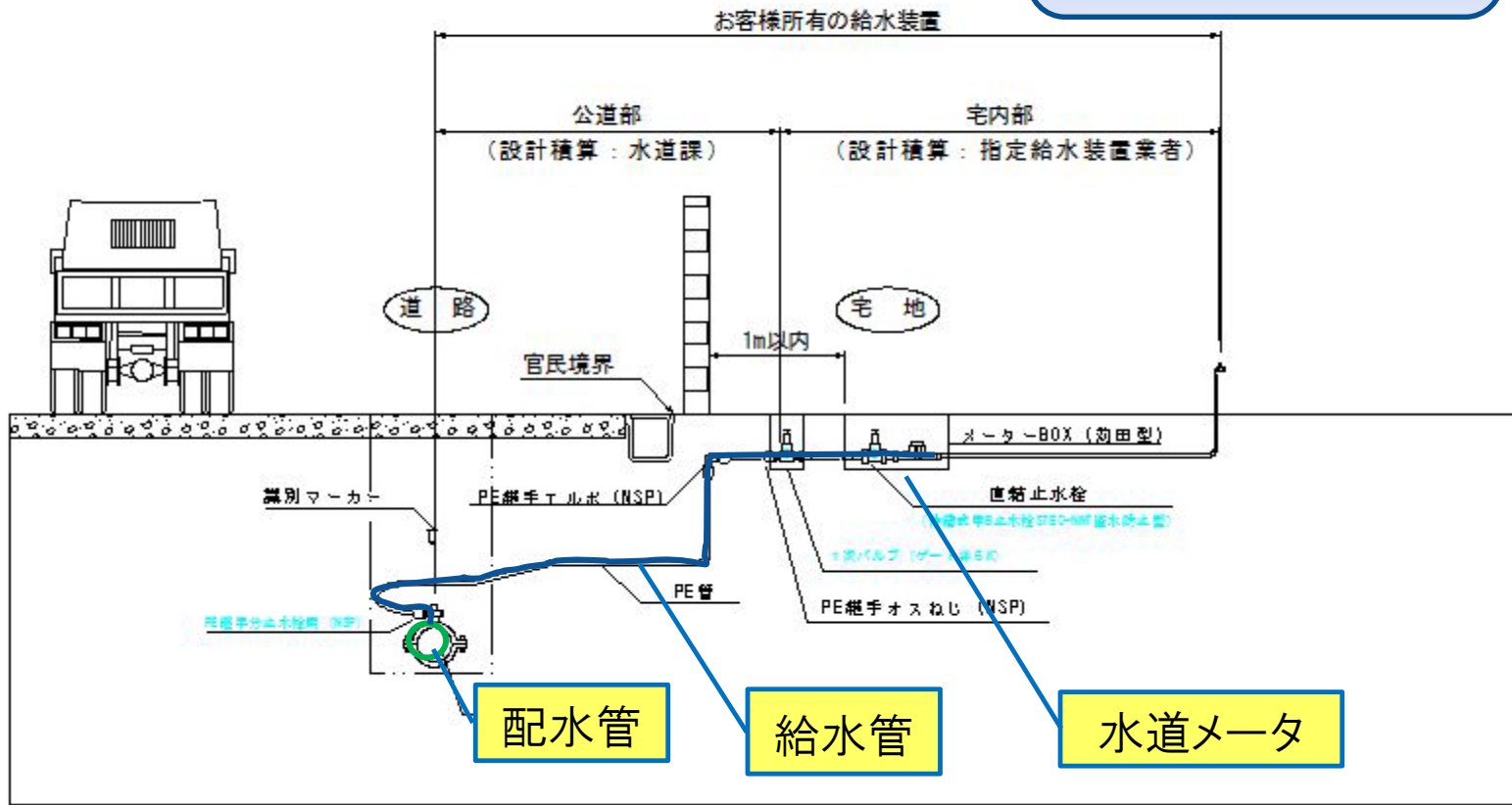
5. まとめ

- ・GIS導入による効果、効果額

1. 水道のしくみ

給水管標準図

-給水管-
 配水管から分岐して
 設けられたもの



浄水場 → 配水池 → 配水管 → 給水管 → 水道メータ → 家庭の蛇口